

3-6. 社会経済調査

地下ダム建設位置選定のための現地調査において、タンガポーレ村 (Tangapore) とナレ村 (Nare) にて社会経済調査も実施した。

以下、両村落における社会経済調査の結果概要を示す。

タンガポーレ村 (Tangapore) ;

- ・ 人口 2,079 人、全住民がモシ族である。
- ・ 村内に小学校 1 校 (1995 年開校)。診療所はない。
- ・ 村内の産業は主として農業、副次的に牧畜。市場 (Korsimoro) での商活動も盛んである。
- ・ 主な疾病は髄膜炎、眼病、頭痛、腫瘍、下痢など。
- ・ 1995 年までの平均年降水量は約 660 mm。

村落は低い山地と準平原の移行部にあり、準平原部はもとより、山地の緩斜面まで耕地化されていて、農地は限界近くまで開発されている。化学肥料が一部で用いられていることもあり、食糧自給率は 90%以上と推測される。しかし、新たな農地開発の余地がなく、土地劣化が進行しているため、近い将来、人口増加に伴って深刻な食糧不足が生じる可能性がある。このため、土地生産性を高めることが重要であり、そのためには新たな水資源の開発が重要な「鍵」になると評価された。

副次的に行なわれている牧畜は、干ばつ等非常時用の「貯蓄」としての役割を担っているが、牧草地が少ないことと及び乾季に家畜用の水が不足することが問題となっている。

村内にはハンドポンプが 3 基、掘抜き井戸が 6 基、小規模ダムが 1 箇所、溜池が 6 箇所あるが、生活用水は需要量 (1 人当たり約 20 リットル) の約 70%しか給水されていないと推定された。また、家畜が使用する小規模ダムや溜池の水が生活用水としても利用されているため、水因性の疾病が少なくない。このように、生活用水を改善する上でも、新たな水資源開発が必要とされている。

タンガポーレ村の若者の中には農業の近代化を試みているグループがあり、堆肥製造や野菜栽培を手がけている。また、小学校では植樹教育が行われている。「水不足」がこれらの活動を妨げているが、このように住民の間に意欲・経験・認識があることは、地下水資源の有効利用を柱とする本事業への住民参加を促進する上で、有利な条件になると思われた。

ナレ村 (Nare) ;

- ・ 人口 2,896 人、住民の多くがモシ族であるが、フラニ族も居住。
- ・ 村内に小学校 1 校 (1996 年開校)。診療所はない。
- ・ 村内の産業は主として農業、副次的に牧畜 (フラニ族の場合は牧畜が主)。
- ・ 主な疾病はギニアウォーム、眼病、赤痢、髄膜炎など。
- ・ 1995 年までの平均年降水量は約 590 mm。

一部に小規模な「残丘」があるが、全体的に準平原が発達しており、村内をニジュール河水系グワヤ川 (Gouaya) の支流コロongo川 (Kolongo) が流れている。ただし、この河川は雨季にしか流水のない「季節河川」である。

準平原やコロongo川沿いの低地 (一部氾濫原) は農地として開発されているが、農地面積は当地域の約 12%に過ぎず、農地開発の余地は残されている。森林面積は約 2%しかない。また、当地の約 20%を占める裸地の多くはかつての耕作地であったとのことであり、ブッシュ～森林の伐開・農地化による土地劣化が進行しつつあると推察される。

農地は全般にやせており、化学肥料や堆肥はほとんど使用されていないこともあって、ナレ村における食糧自給率は 60%程度 (あるいはそれ以下) と推察され、ブルキナ・ファソ国の中でも最も貧しい村落の一つとなっている。家畜 (特に牛) が多数見られるが、その多く

は牧畜民であるフラニ族が飼育しているものであり、干ばつ等非常時用の「貯蓄」となるだけの家畜を飼育しているモン族は少ない。

ナレ村（コンバンベド村（Kombangbedo）を含む）に近代的給水施設は少なく、ハンドポンプが1基、コンクリート枠付き掘抜き井戸が5基のみである。これらによる給水量は需要量の60%以下と推測された。多くの住民が、雨季には河川水から、乾季には氾濫原に掘削した素掘り井戸から生活用水を得ている。そのため、ギニアウォーム等の水因性疾病が多く生じていた。食糧不足への対処と現金収入を得るために野菜栽培を希望する住民が多いが、生活用水さえ満足に得られない状態にあるため、実際に野菜栽培を行っていたのは1家族のみであった。

このような背景から、ナレ村住民は新たな水資源開発を強く希望していた。しかしながら、生活改善や村落開発に必要な情報を持っておらず、本モデル事業への住民参加には困難が予想された。

以上のような両村の社会経済調査の結果からは、タンガポーレ村のほうが本モデル事業の受け入れ素地は整っていると思われた。

しかし、3・5で述べたように、地下ダム建設に適した水理地質構造を有するのはナレ村であった。本事業ではモデル事業として地下ダム建設の可能性を重視する必要があるため、ナレ村を事業実施箇所とすることに決定した。